

斜里川流域における外来貝サカマキガイの初記録

臼井 平¹・秋山 吉寛²

1. 099-4113 北海道枝幸郡枝幸町三笠町 1614-1, オホーツクミュージアムえさし 2. 739-8527 広島県東広島市鏡山 1-4-1, 広島大学環境安全センター館

First Record of Introduced Freshwater Snail *Physa acuta* from Shari-gawa River basin, Eastern Hokkaido

USUI Taira¹ & AKIYAMA B. Yoshihiro²

1. Okhotsk Museum Esashi, 1614-1 Mikasa-machi, Esashi, Hokkaido 098-5823, Japan. ✉usu.taira@gmail.com 2. Hiroshima University, 1-4-1 Kagamiyama, Higashi-hiroshima, Hiroshima 739-8527, Japan

はじめに

サカマキガイ *Physa acuta* (Draparnaud, 1805) は、サカマキガイ科に属するヨーロッパ原産の淡水巻貝で、アジア北部、樺太、北アメリカ、アフリカ、オーストラリアに外来生物として分布している(上野 1973; De Kock & Wolmarans 2008; Zukowski & Walker 2009)。日本国内では 1945 年に神戸市内で最初に記録されて以来、急速に分布を広げ、現在ではほぼ全国的に分布しており、日本生態学会の作成した「日本の外来種ワースト 100」に選定されている(上野 1973; 増田 2002)。

国内の分布は関東以南で多く、全域にわたって分布が広がっている。また、関東以北での分布は、関東以南ほどの分布の広がりは見られないものの徐々に分布を広げている傾向にあり、北海道においても現在までに道北地域をのぞく 16 水系 23 地点で本種が確認されている(自然環境研究センター 2010; 国土交通省, 全国河川ダムの確認種一覧表: 平成 2 年度 - 平成 17 年度 3 巡調査結果総括資料, 河川環境データベース: 河川水辺の国勢調査, http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/pdf/k02_Ju_Ga.pdf, 2014 年 2 月 18 日閲覧)。

本種は北海道ブルーリスト 2010 の中でカテゴリー A2, すなわち「本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討

する外来種」に指定されており(北海道 2010)、肝姪や広東住血線虫などのヒトの寄生虫の中間宿主として機能し、病気を媒介する。また現在までは在来種の存続を脅かすような報告は無いが、局所的な多産性のため地域によっては在来の底生生物群集を圧迫している可能性は十分にあると考えられる(増田 2002)。

外来生物の移入は、意図的な場合と非意図的な場合に分けられるが、本種においては飼育としての人気や水産的な価値は無いものの、観賞用の魚や水草に付いて、継続的に持ち込まれる後者と考えられている(増田 2002)。このような場合、移入された時期や場所を特定することが難しく、駆除及び防除をおこなう際の有用な情報を得る事が困難である場合が多い。そのため、このような外来生物の対策を考える上で分布等の情報を更新し蓄積することが極めて重要である。

そこで今回、本種の分布が斜里川流域において初めて確認されたので報告する。

調査地および調査方法

調査は 2012 年 7 月 16 日に、北海道東部の知床半島基部に位置する清里町内を流れる斜里川流域の札鶴川支流でおこなった。貝の採集は、河川沿いを遡行しサカマキガイと思われる貝類を無作為

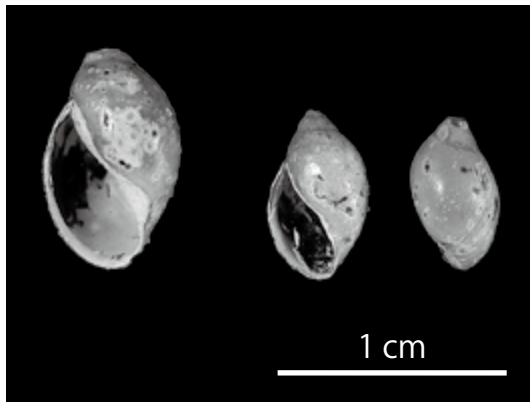


図. 斜里川流域で採集されたサカマキガイ *Physa acuta*. 内田暁友撮影.

に20個体採集した。採集した貝は生かしたまま持ち帰り、実体顕微鏡下で同定し、ノギスで殻高と殻径を計測した。同定は上野(1973)にしたがって殻、触角、外套膜の3点の形質をもとにおこなった。なお、殻は証拠標本として知床博物館に収蔵されている。

結果

調査河川の礫に付着する多数のサカマキガイ科の貝類が確認された。また採集した20個体を同定した結果、殻は卵形で殻幅は殻高の1/2よりも大きく、外套膜に指状突起が見られ、上野(1973)によるサカマキガイの記載に一致した(図)。これら20個体の殻径を計測した結果、2.4–6.0 mmと大きさにばらつきが見られた。

考察

これまで北海道東部において網走川、常呂川、釧路川などでサカマキガイが確認されていたが、本調査により斜里川流域においても本種が確認された。また、本種は、富栄養化した環境を好むことから(増田2002)、生活排水などが安定的に供給されている河川では、生息および再生産可能と考え

られる。本調査地においても、河川近隣に民家があり生活排水を直接河川に排出していたため、本種はこの排水に依存して生息していた可能性が高い。こういった環境は斜里川流域だけではなく全道各地に多数存在しているため、今後も本種の分布調査をおこなっていく必要があるだろう。

Physa acuta (Draparnaud, 1805) サカマキガイ (図)

標本: 北海道網走地方, 斜里郡清里町. 斜里川流域, 札鶴川支流. 2012年7月16日. 白井平採集. Specimen examined: Hokkaido, Abashiri district, Shari-gun, Kiyosato-chō. Shari-gawa River basin, branch of Sattsuru-gawa River. 43°42′31.6″ N, 144°30′36.3″ E (WGS84). ca 150 m alt. July 16, 2012. coll. T. Usui. Shiretoko Museum.

引用文献

- De Kock K. N. & Wolmarans C. T. 2008. Invasive alien freshwater snail species in the Kruger National Park, South Africa. *Koedoe* 50: 49–53.
- 北海道. 2010. 北海道の外来種リスト: 北海道ブルーリスト2010. 35 pp. 北海道, 札幌.
- 増田修. 2002. サカマキガイ: 日本の水田や水路にすっかり定着. 村上興正・鷺谷いづみ(監), 外来種ハンドブック. p.172. 地人書館, 東京.
- 自然環境研究センター(編). 2010. 日本の動物分布図集: 自然環境保全基礎調査; 動物分布調査. 806 pp. 環境省自然環境局生物多様性センター, 東京.
- 上野益三. 1973. 日本淡水生物学. 760 pp. 北隆館, 東京.
- Zukowski S. & Walker K. F. 2009. Freshwater snails in competition: alien *Physa acuta* (Physidae) and native *Glyptophysa gibbosa* (Planorbidae) in the River Murray, South Australia. *Mar. Freshwater Res.* 60: 999–1,005.